

OPU Students 海外留学レポート

Study Abroad Report from the OPU students



プロフィール (Profile)

氏名 (Name) 浅尾 茉里

所属 (School) 現代システム科学域 環境システム学類

学年 (Grade) 2年

留学先 (Name of overseas institution)

イギリス カンタベリー

留学期間 (study abroad period)

2020年2月15日～3月8日

留学レポート Study Abroad Report

私がイギリスへ留学をするきっかけとなったことは、いくつかあります。まずは、留学をしたいと思ったきっかけについてです。両親の協力もあり、小さいころから英会話に通わせてもらったりと、英語に触れる機会が多かったため、次第に海外でネイティブに囲まれて勉強したいと思うようになりました。海外留学をするにあたっては前向きな両親でしたが、本当に海外に留学という形で出ていくのは大学に入ってからという決まりがあったので、大学に入るまではずっと我慢をしていました。大学入学後は、4年間しか時間がないと焦ってもいたので、学生向けにある留学の説明会に参加したり、実際にI-WINGで話を聞いたり、パンフレットを集めたりと情報収集を徹底しました。自分が納得いくことはもちろんですが、両親にも安心して送り出してほしかったからです。いくつか学外のプログラムも見たりしましたが、大学が出しているプログラムならということが決め手になり、大学が提供しているプログラムに参加することにしました。

次に、なぜイギリスという国を選んだかということについてです。大学が出しているプログラムではほとんど選ぶ余地がなかったからということもありましたが、父が若いころに一人旅をした国であったから引かれたということもあります。父が持っている昔のロンドンの写真はとても趣があり、ぜひ自分の目でも見てみたいと強く感じたからです。また、父からもイギリスについていくつかアドバイスをもらうこともできたので、不安に感じることはあまりなかったです。しかし、出発の一ヶ月ほど前から中国でコロナウイルスが発生し、日本国内でも感染が見られ始めていたことから無事に出発することはできるのかという不安はありました。無事にイギリスに着いたとしても現地で嫌な思いをしたりするのでは、とも感じていました。後に詳しく記述しますが、結果としては特に嫌な思いをすることはなく、楽しく過ごすことができました。

滞在先のカンタベリーはロンドンからバスで二時間ほど離れた街でロンドンとは対照的に落ち着いた雰囲気が印象的なところでした。ホームステイ先では、ホストマザーとホストファザー、二匹のかわいいシーズー犬が暖かく迎えてくれました。到着した時はへとへとだったのですが、私の希望をしっかりと聞いてくれ、疲れに配慮してくれました。着いて早々に緊張していたのですがコミュニケーションをちゃんと取れたので安心しつつ、ホストファミリーの気遣いに感謝しました。翌日の朝には3週間の滞在期間の予定をホストファミリーに説明しました。短い期間ですが、金曜の午後と土日は自由なのでロンドンへの滞在を予定していました。事前にSMSを使って連絡をしていたのですが返信がなくきちんと伝わっているか不安でしたが、返信の連絡が私の携帯に届いていなかっただけでした。もちろん、ロンドンへの滞在も「あつという間だから有意義に」と快く了承してくれました。ホームステイ先での基本的な生活スタイルは日本とほとんど変わらなかったように思います。家が日本の家よりも暖かい事、バスタブがなくシャワーのみだった事くらいが大きな違いでした。食事朝はシリアルとパンという洋風なものでしたが、日本で食べている朝ごはんよりも豪華だったので満足です。夜は毎日違うメインが出てきてとてもおいしかったです。留学生がほかにもよく来ているので、イギリスの伝統的な食事を出しているのだそうです。

学校までは徒歩 20 分ほどで、通学路の途中には車通りの多いところもありましたが、歩道に人が待っているとイギリスの車は必ず止まってくれるので基本的に安全でした。学校では予定通りクラス分けの試験を受け、各クラスに分かれて授業を受けました。クラスのメンバーは私が思っているよりも日本人が多かったですが、ここで、痛感したことは文法は出来るけどコミュニケーションが取れる「使える英語」ができないということでした。また、耳も慣れていなかったので話についていくだけで精一杯でした。聞きながら考えて発言する、日本ではやってこなかったことがここでいきなり求められたことは私にとってとても難しいことでした。授業で扱う問題や教材は難易度は高すぎず、知らない単語が出てきても先生が分かりやすく教えてくれるので日本語で辞書を引かなくても大丈夫でした。さらに、いろいろなトピックについてクラスメイトとディスカッションするということが度々ありましたが、徐々に慣れてくるといろいろな言い方に挑戦してみたり、知らない単語も避けながらうまく話することができるようになってきたりと、自分自身の中でも成長を感じるが増えてきました。うまく話せないと思っても頑張っていると周りが助けてくれたり、それは学校の中だけではなくホームステイ先はもちろん、街中でも助けてもらえることがありました。ずっと誰かと一緒にいると安心ですが、少し慣れてきたときに一人で街を散策したりしてお店の中で店員さんとコミュニケーションをとる練習をしてみたりするといいかもかもしれません。何もしゃべらなくても買い物ができる店ではなく、何かオーダーしないといけない、やり方を聞かないといけないといったところへ積極的にいった方が、自分は挑戦出来たと思えます。今思うとこんなつたない英語をよく聞いてくれていたなと思いますが、その分英語の使い方が分かってきているはずだと頑張ってたよかったです。しかしながら、正直なところは3週間では英語の話す力はほとんど変わらないと感じましたが、変わらなくても伝え方や聞く力、どうやったらうまくアウトプットできるのかということのヒントはたくさん得られたと思うので、将来また挑戦する機会があったら今度は長期的に挑戦したいと強く思いました。

週末の主な過ごし方についてですが、私はずっと外出していました。ロンドンへは、値段を抑えるためにバスで行っていましたが、片道2時間以上もかかっていたので(遅れ等)観光地を回ろうと思うと1泊してしまった方がその分時間もお金も節約できました。いざ、到着してみるとロンドンは私が想像していたイメージとは違い、古そうな建物が各所にありどこを見ても絵になるようなところでした。また、人が多いのは本当で中心地は人々がせかせかとしていて忙しい街でした。どこを歩いても人だらけで息が詰まりそうでしたが、バッキンガム宮殿の近くにある公園はかなり広大で、高さのある樹木がたくさんあり空気も澄んでいるように感じました。ロンドンにこんな穏やかな場所があるのかと思うくらいゆったりとした場所でした。よく見てみるとロンドンは街路樹こそあまり見ないものの、大きな公園が中心地にもあり日本の都市とは構造が根本的に異なっていると感じました。大都市でありつつもこのような緑あふれる場所がしっかり確保されていることがロンドンの大きな魅力の一つになっているのだと認識することができました。高級なブティック街を歩いて回ることも普段あまりしない事なので歩いているだけで贅沢をしている気分になりました。このようにロンドンの町を歩くだけでも様々な発見をすることができて楽しめます。ロンドンへは3回行ったのですが、そのうちの2回は滞在しました。特に充実していたと感じたのは2回目に滞在の時でした。ミュージカルのレミゼラブルを見て、翌日にハリーポッターのスタジオツアーに参加するというものでした。午後からロンドンへ向かったのであわただしい一日でしたが、ミュージカルは圧巻で見に行った全員が感動しました。日本でミュージカルを見に行った事はなかったのですが、話を知っていれば英語でも十分に楽しむことができると気づくことができました。何か見に行きたい公演やツアーがあれば、あらかじめ日本で調べておいて予約していった方が現地ですムズなのと値段も抑えられたりするのでお勧めです。一方で、ロンドンでのスリの話はまだよく聞かれて、よく注意されることなので週末の予定はあらかじめ立ててから行った方が安全に楽しめるかと思いました。

最後に、この研修を振り返って一番感じることは、ただただ幸せだったなということです。こんなに毎日が充実していて、刺激的な人・ものに会えたことに両親をはじめ、すべての人に感謝しています。短いながらも海外での生活を通して自分を客観的に見直すこともでき、まだまだ成長できる部分を感じる事ができました。たくさんの人との出会い、思い出、学びを大いに生かすべく残り少なくなった大学生活を有意義なものにしたいという思いが強くなりました。

